



紀平真理子のオランダ通信

第33回

Friesland Campina イノベーションセンター

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペインラテンアメリカ学科卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてに実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。



イノベーションセンター外観

1月にヴァーヘニンゲン大学の敷地に立地するFriesland Campina イノベーションセンターを訪問した。同センターは部署の垣根を超えて、自由な雰囲気でのイノベーションを生み出すため2013年に設立、大学の敷地内にあることから共同研究も行ないやすいという利点がある。また近年力を入れているアジア市場向けにシンガポールにもイノベーションセンターがある。

もともと約140年前に協同組合として設立し、Friesland Foods and Campinaの2つの協同組合の合併により09年からFriesland Campinaとなった。オランダでは19世紀末の農業危機により協同組合の部門ごとに合併が進み、結果連合協同組合はな

くなった。オランダ協同組合法では内部ガバナンスや組合員、非組合員からの資金調達が柔軟で、また人的結合体と企業体を法律上分離することが含まれている(引用…『EUの農協2014』)。

同社は現在、世界100カ国で乳製品を製造・販売しており、日本でもFricoブランドでチーズを販売している。売り上げは113億ユーロで乳業会社としては世界で6番目、酪農協同組合としては組合員1万9006名(多国籍組合…オランダ、ベルギー、ドイツ)で世界トップ、協同組合(Zuivelcoöperatie FrieslandCampina U.A.)と乳業会社(FrieslandCampina NV)を持つ。協同組合が同社の100%オーナーであり、生産者は協同組合に生乳を販売し、組合員は代価を受け取る。

どのように製品の開発・販売に関するイノベーションの役割を果たしているか。約2万の組合員を21の地域に分け、各地域より10人の郡議会議員、計210人を選出。各地域の委員長は組合議員となり、さらにうち9人が組合委員会に選出され、外部監査とともに乳業会社の監査役を務める。例えば新しく事業所を作る場合は、まず監査役、次に組合委員会、さらに組合議会までの承認を得る必要があり、組合員の声が反映される

仕組みだ。

また同社はCSR(企業の社会的責任)として①栄養・健康、②アジア・アフリカ開発、③持続可能な生産チェーン、④持続可能な酪農を挙げ、同社が開発途上国に工場を建設した際にオランダの生産者を現地に派遣し、彼らが農場で指導を行なうと、結果として搾乳量と品質が大幅に増加するそうだ。

「オランダでは1人の酪農家が1.1人の社員を雇っている」と言われているとおり、オランダの酪農家は自ら酪農業を支えているという自負心が強い。また同社の任務は利益を出し、工場を維持することで子や孫の代まで生産者が酪農を続けたいと思える環境をつくることだとしている。



ビジュアルツールを使用し、訪問者に効果的に説明